

浜ゴムエンジニアリング CSRレポート

事業内容: タイヤ生産設備の開発・製造・稼働支援・オーバーホール事業
敷地面積: 2,700m²
従業員数: 47人(2011年4月1日現在)
所在地: 〒254-8601 神奈川県平塚市追分2番1号横浜ゴム株式会社 平塚製造所内



社長ご挨拶



高山 章久

浜ゴムエンジニアリング(株)は、環境技術・省エネ技術から学び、徹底したムダ取りの思想と技術の追求を活動の軸に置き、現地で組み立てる設備づくりを目指し、キットユニット化施策を通じた設備と人づくり活動を推進しています。さらに今後、東日本大震災から学ぶ水害対策を加味した解体・分別しやすい視点からの設備構造の具現化に向け、国内・海外ネットワーク協業内製化活動を基本に従来の仕事のやり方を変え、活動を加速しています。

また、企業の継続を基本に置き、環境変化に柔軟な対応ができる生産設備を提供。分別、回収、再利用のしやすさと、どこで作った部品・素材でも目標の品質・性能を出せる設計・設備を目指します。

環境技術・省エネ技術から学ぶことをベースとして、特に異業種加工設備から学ぶことを情報の共有化活動を通じて取り組んでいます。

国内および海外拠点への設備製作および据付を担当しています。

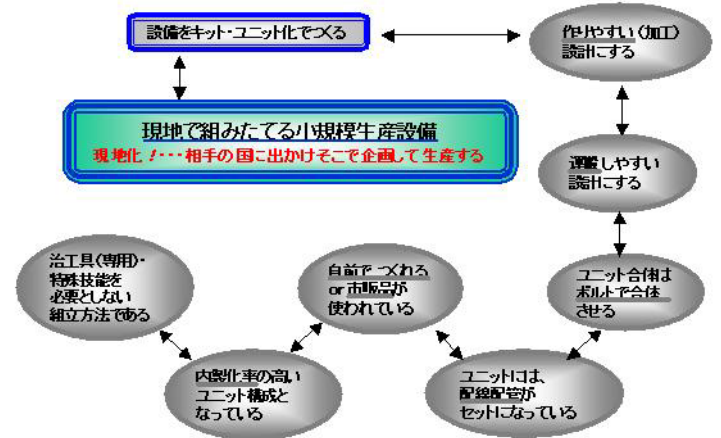
現地での設備据付では、「現地で組み立てる設備づくり」を目指しています。

また、2009年度からは、YEネットワーク協業内製化チームによる設備製作の「内製化」と「生産設備キットユニット化」に取り組んでいます。

市販品・完成部品を徹底して活用し、設備費用の削減を図っています。設備をキットユニット化することにより、分解回収しやすく、小型で移動可能な設備づくりをしています。

現地での組み立てコスト・ミニマム、生産設備面積ミニマム、エネルギーコスト・ミニマムを実現する「小規模生産設備づくり」を目指しています。

知恵と創造



環境経営の推進

環境方針

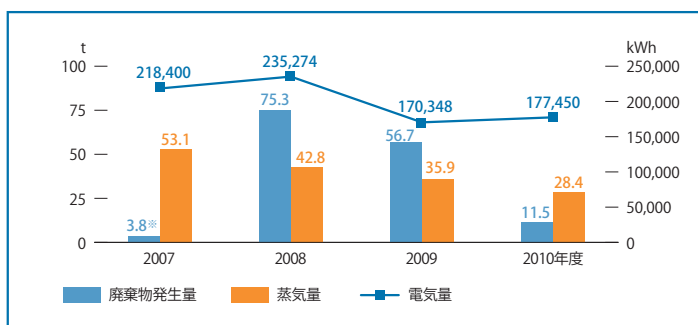
基本方針

徹底したムダ取りの思想と技術の追求を通じて、現地化設備の小型・軽量化を目指す!

行動指針

- ・素材から切屑を最小にする分別しやすい設備・治工具づくりを実行する。
- ・環境側面の視点から設備づくりにおけるリスク管理を実行する。

環境データ

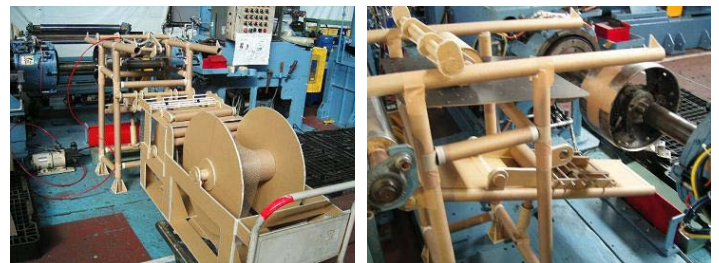


*金属屑除

具体的な活動の紹介

①生産設備の試作・実験機

遊休設備部品・徹底した市販品の活用・段ボールによる外観検証



②加工素材屑率削減

素材材料見直し・素材ルートからMIN化をねらう

③物流コンテナ・車両にあわせた設備外形の整備

設備の小型化を基本として設備外形をはじめから物流視点で制約する

④ 切削油の水ベース化

環境に優しい油剤の採用



⑤ 電力節電対応

グリーンカーテン試行・太陽光発電応用など内製化活動



⑥ 端材・廃棄材の活用

ハニカム材・切屑などリサイクル治工具化の活動

・ハニカム廃材を活用して冷房効率の低下を防止させるエアコン室外機カバーの製作



・ハニカムおよび切屑廃材を活用してエアークリア音の消音器を開発



⑦ 市販品の活用

徹底した完成された部品・備品活用による加工のMIN化



⑧ CO₂発生数値の意識向上

各々の活動が結果CO₂発生の数値を認識する意識活動



安全方針

基本方針

災害・加害交通事故ゼロ化を目指す！
加工中に手を出さない設備づくりを追求する！

行動指針

安全作業心得を徹底する。
目の前でおきている小さな変化をお互い注意し合う。

従業員の教育・訓練

入社時安全衛生教育の実施および、3年～5年で一人立ち（海外単独出張等）できるよう、マンツーマン指導による現場技術の取得を行っています。

安全衛生関連資格取得は、入社1年目に楊重装置資格取得（玉掛け、床上操作式クレーン、フォークリフト）を行い、入社3年までに基本資格を取得します。

災害時の対応

全従業員（パート・嘱託・派遣・OB含む）が普通救命救急講習受講済みです。

また、全従業員が横浜ゴム（株）平塚製造所消防隊組織へ加入し、災害時の活動役割を明確化しています。

年4回の防災訓練実施：①②横浜ゴム（株）平塚製造所防災訓練（地震、総合）、③平塚市危険物防災協会主催防災訓練、④独自防災訓練。④については自職場に即応した訓練（階段担架搬送訓練、緩降機降下訓練等を実施）。

無災害記録

1996年3月22日からスタートした無災害時間は、2,379,599時間（2011年度4月1日現在）となり、現在も記録更新中です。

（2011年6月1日現在：2,397,236時間）

地域とのかかわり

YEネットワーク内製化協業各社（該当46社）および（株）平塚機械設計協業による学習会を、2009年度から月に1回継続しています。時には地元の工科高校・産学研究会の方々との交流なども含め、環境技術意識の共有化・情報の活用によりスピーディな活動を展開しています。



平塚工科高校社会部との交流会

YOKOHAMA千年の杜プロジェクト

「YOKOHAMA千年の杜」プロジェクトの苗づくり活動として、どんぐり拾いの会を開催。従業員有志が集まり、近郊の森にてアカガシやアラカシなどのどんぐりを集めました。

